

愛媛県松山市の大樹さん

特別住民番号1849

大樹町の皆さん、そして全国の大樹さん「こんにちは！」
僕は、四国の松山に住む浅山大樹です。平成元年4月12日生まれです。



生まれたのはお昼の3時34分で、すごく安産だったそうです。
身長は48.5cmで体重は2,704グラムの小さな赤ちゃんだったけど、今は145cm 32kgで、クラスで一番背が高くなりました。

僕の名前を付けたのはお母さんで、本当は「湊」にしたかったらしいです。でも、お父さんとお婆ちゃんに反対されて「大樹」になりました。

「大地にぶっとい根をはって、大空に向かってどこまでも伸びてゆくような、屋久杉よりも大きな樹になって欲しい」

そんな気持ちが有るとお父さんは言っていました。

僕がそうなれるかどうかは分からないけど、いつでもみんなと仲良くしていきたいと思います。

それから、僕は一昨年家族で北海道へ行きました。だけど道南めぐりと言うコースだったので「大樹町」へは行けませんでした。

いつになるか分からないけど今度行く時は必ず「大樹町」へ行きます。

その時に「大樹町」の樹をもらって、家に植えたいと思います。

ではそれまで皆さん元気できれいな「大樹町」を守って下さい。

秋田県大館市の大樹さん

特別住民番号1854

予定日より3週間早く生まれた我が子は、それでも2,952gと初めてにして待望の男の子だったのです。



大きな喜びの中で、ほっそりした顔立ち、補乳力が弱いと言われながらすぐたくわりには、ごくごく飲みっぷりのよい我が子を見て名付けた父親いわく、まさに読んで字のごとく、大地に根をはる樹木のように、広く、素直な心とやさしさを持ち、強くたくましいスポーツマンになってほしいとの願いから、「大樹」との命名となりました。

本当にスクスクと育ってくれ、反抗期の繰り返しも何のその、5才からのチビッコレスリングを始め、野球、スキー、そして、中学・高校とバレーボール部に所属、6年間アタッカーとして活躍してくれました。

今や、父親(172cm)をすでにこえ、180cmとなった長男の成長ぶりに、八年前天国へと旅だった父親も目を細めて見守ってくれていることでしょう。

縁があって札幌の地で四年半暮らし、その間に道内を旅行した際に、地図で大樹町を知った時は、ちょっとこそばゆい思いで父親が我が子へ“いつか連れてってやるからな”と話していたことが、ついこの間のことのようによみがえり、とてもなつかしい気持ちでいっぱいです。思い出は宝です。大学受験をめざして頑張っています。

今回の企画に際して、改めて我が子共ども亡き主人との過ごした思い出が再び、強くわきあがってくる想いと、日々を大切にしていきたいと思う毎日なのでなのです。ありがとうございました。(母)

北海道音更町の大樹さん

特別住民番号1866

「お父さん、もし男の子だったら名前つけてくれる？」かけつけた病院



の一室で、私は父にきり出しました。この一言が“大樹”という名前を生み出した最初の言葉、平成4年2月、妊娠5ヶ月のことでした。

それから数日後、私と母は病院からの電話で呼び出され、父が肝細胞ガンであり、余数数ヶ月、夏みかん大に膨れあがったガンが破裂したならば数分でいってしまうだろう。という医師の宣告を受けました。「もう間に合わない。この子はお父さんの生まれ変わり？」全てが悲観的になり、母と泣き明かす毎日でした。ところが、神奈川から音更に入殖し、一代で日本記録牛を次から次へと作り出した父のこと。簡単には負けませんでした。

やがて初めてののお産。暑い7月の昼近く相模原市内の病院で私をさほど苦しめることもなく元気に出てきてくれたのはなんと男の子でした。たまたま講演をひき受けて、県内にある実家に帰っていた父は、早速病院に来てくれました。初孫との対面、嬉しそうな父の顔、そして命名。“昭和一ケタ生まれの父のことだからセンスのない名前考えてたらどうしよう”と少々不安な私をよそに父は紙に書き出しました。

“土屋、大樹”

“うわー、かっこいい”文句のつけようもなく、私はすぐに気に入りました。土に芽出た種が大木になるがごとく、大きな人間にうなるように、との願いを込めたそうです。私がいつか病院で頼んだすぐ後に考えたそうです。

父はその後、病名も知りつつ、治療を重ね、仕事も精力的にこなしながら志半ばで平成6年11月に亡くなりました。もう間に合わない、と一時はあきらめた初孫との2年半、私は大変な親孝行をしたと自分に言い聞かせ、父が込めた願いのように、大樹がいろいろな経験を積み重ね、悲しみのわかる大きな器を持つ人間に育ってくれたら、と思います。(母)

神奈川県横浜市の大樹さん

特別住民番号1871

昭和63年2月6日に、長男として誕生しました我が家の「大樹」は、私達の夢と希望を共に築いていこうという思いが一杯つまっています。「大樹」のごとく年輪を重ねながら、まっすぐ大空を目指して伸びていくそんな大きな樹を想い浮かべながら命名しました。「ひろき」と読ませているのは、優しい響きだからです。とても気に入ってますが…、この息子も今は小学六年生になりました。(母)



千葉県市川市の大樹さん

特別住民番号1873

平成8年8月26日、我が家に長男「大樹(たいき)」が誕生しました。妊娠中、産婦人科の先生には性別を聞かないことに決めており、どちらが産まれても良いようにと、男の子、女の子両方の名前を考える事にしました。女の子の名前はすぐに決まったのですが、男の子の名前がなかなか決まりませんでした。ところが、産まれる二日前に、お腹の子は男の子であることが分かってしまい、慌てて男の子の名前を考えました。名付けの本もめくってみました。悩みぬいた結果、大きくすこやかに育ってほしいとの思いにぴったりの名前「大樹」と名付ける事に決めました。特に、人の気持ちが分かる、大きな心を持った人物に成長して欲しいと願っています。まずは弟思いの優しいお兄ちゃんになってね。



千葉県習志野市の大樹さん

特別住民番号1875

私の大樹という名前は、父が「幹雄」と、母「美紀子」との間に生まれたので「幹と美紀を越える大きく真っ直ぐに伸びる健康的で誰をも分け隔てなく優しく抱く樹」になるようにとの願いを込めて名付けたそうです。



同じ名前の「大樹町」には、ロマンと親しみを感じます。

栃木県宇都宮市の大樹さん

特別住民番号1879

我が息子「大樹」は第一子ということもあり、命名はやはりそれなりに悩みました。かといっていくつもの中から選び出したわけではなく、命名辞典を見て考えていたのですが、今一つしっくりこない…。う～んどうしようかな、と考えつかぬ中、夫はしっかり決めていました。



夫曰く、

「樹」という漢字の持つ美しさとりりしさ、が好きであり、また、「大きな樹」となってどっしりとかまえ、かつ、他を覆うように包み込む優しさを持った人間になって欲しいと願い命名致しました。名前の通り「大きく」すくすくと成長しています。

妻曰く、

(夫から名前を聞いて)直感的に、「いいんじゃないうん、いいよ」と思いました。「大」という字の大胆さと「樹」という字からは複雑で繊細さを感じ、何かこのアンバランスさに人間らしさを感じそして自然を感じました。

こうして決まった「大樹」ですが、この6月で1才を迎え、いよいよ悪戯盛りとなり目のはなせない毎日を送っています。もう少し大きくなっていろいろなことが理解できるようになるころ、家族で大樹町に遊びに行けることを心より楽しみにしています。(父)

兵庫県西宮市の大樹さん

特別住民番号1881

主人の中学の時から親友が釧路で郵便局員として働いており、暑中見舞いに、新聞の切りぬきが同封されていたので、今回FAXした次第です。

大樹は私達の初めての子供で、あの阪神大震災の時は、妊娠5ヶ月でした。タンスの下敷きになりながらも、大したケガもなく、無事大樹を出産する事ができました。



大樹と言う名前は、あの地震でたくさんの家が倒壊する中、木は倒れず、しっかり地面に根を生やしたままでしたので、男の子と言う事もあり、しっかり地に足を付けて、少々事でも動じない、やさしい子になってほしいと思いつけました。うちの子の名前と同じ大樹町の存在を知り、機会があれば、伺いたいと思います。(母)

北海道旭川市の大樹さん

特別住民番号1890

全国の、そしてフランスの、「大樹」さん、こんにちは！僕、ほりたさいきです。

4歳です。幼稚園の年中です。9歳の真衣お姉ちゃんと7歳の優衣お姉ちゃんと恭宏お父さん奈保美お母さんの5人家族です。お姉ちゃんが二人いるので一見おとなしそうな男の子に見られるけど、ぜーんぜん違うんだ。やんちゃ坊主で、サッカーをしたり、自転車に乗ったりして遊ぶのが好きなんだ。冬はスキーもビュンビュン直滑降ですべり下りるんだ。毎日、お母さんを困らせたり、お姉ちゃんに喧嘩で勝つ事もあるんだよ。

そうそう、どうして「大樹」という名前になったかって…！？

お父さんとお母さんに聞いてみたんだ。心の広い人になってほしいと思って、最初は「雄大」という名前を考えていたんだって、だけど画数が「堀田」に合わないのと、優衣お姉ちゃんと同じ「ゆ」から始まる呼び名だと間違い易いという事で没になり、二人で頭をひねったんだって…。そこで登場したのが「大樹」なんだって、樹木のように大地にしっかりと根を下ろし、心の大きな人になってほしいという願いが込められているんだって—エッ、僕、責任重大！—それに画数もピッタリだし、そしてそしてその時『大樹



町と同じ字だね』という会話があったんだって！！どうしてかっていうと、お父さんが独身の頃六年間帯広に住んでいて、大樹町に何度も遊びに行っていて、とっても気に入っていたからなんだって。こうして僕の名前が決まったんだって。お父さんもお母さんも三年後に僕が大樹町の特別住民になれるなんて、その時考えもつかなかっただろうなあー。

『ああ！！大樹って名付けてもらって良かったなあ！』

来年の夏休みには絶対に大樹町に遊びに行くね。今から楽しみ！それでは皆さんバイバイ。

広島県呉市の大樹さん

特別住民番号1891

我家の「大樹」の命名の由来を語るには、三つ上の兄、長男である「雄太」の名付けの由来から語らねばなりません。

私達夫婦は、共に北の大地の「北海道」に憧れていました。しかし、未だ一度も訪れたことがありません。その思いは、長男誕生の時、「雄大」という名前を考えていましたが、周囲の反対があり、「雄太」と名付けました。その後、二人目の男の子誕生で、付けることが出来なかった名前の「雄大」を、兄弟の名を一字ずつ合わせると出来上がるよう「大」の付く名前と考えることにしました。雄々しく、かつ温かなぬくもりが伝わるような文字を探しました。その時思い浮かんだのが「樹」という文字です。自然がどんどん壊されていく今の時代、緑多き木々が、いつの日か大木になるよう…。そんな祈りを込めて、「大樹」と命名しました。



大樹にとっては、いろんな思いの中、由来を聞いて、とても重い名前と思うかもしれませんが。1才の頃は、入退院をくり返しました。4才の時は、車にはねられましたが、大事に至ることなく、現在は、とても元気です。大好きな野球と、さまざまな生物に夢中の毎日です。2年前には、弟が生まれ、長年の大将の座を引き渡すハメになりましたが、2才の弟と汗だくになって一生懸命遊んでくれる、とてもひょうきんなお兄ちゃんです。

一兄弟の真ん中で、いろいろとつらいこともあると思うけど、貴方は、我家の大事なムードメーカーです。これからも元気で笑顔の素敵な大ちゃんできて下さい。一大ちゃんへ。とうさん、かあさんより

同じ名前の町が、憧れの北海道にあったなんて感動です。我家の大樹は、未だ飛行機に乗ったことがありませんが、来年あたり、初めての飛行機に乗って、北海道を旅したいと思っています。

末尾になりましたが、大樹町のこれからの益々のご発展を心よりお祈りいたしております。(父)